

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 178人 国語B 178人

② 数学A 178人 数学B 178人

5 留意事項

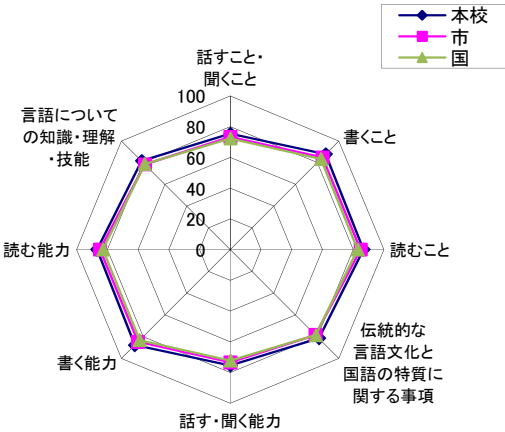
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

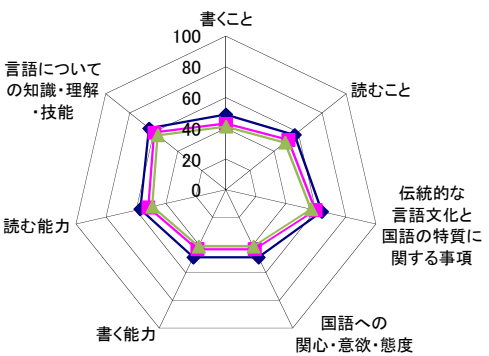
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.4	73.4	72.3
	書くこと	87.9	84.9	83.4
	読むこと	86.7	84.8	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.6	78.5	78.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	75.4	73.4	72.3
	書く能力	87.9	84.9	83.4
	読む能力	86.7	84.8	82.9
	言語についての知識・理解・技能	81.6	78.5	78.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	48.9	43.0	41.0
	読むこと	57.2	51.9	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.0	59.7	56.8
観点	国語への関心・意欲・態度	48.9	43.0	41.0
	話す・聞く能力			
	書く能力	48.9	43.0	41.0
	読む能力	57.2	51.9	49.2
	言語についての知識・理解・技能	64.0	59.7	56.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○要約、説明などの基礎的な言語活動や表現したり理解したりするための言語事項の基礎的な知識・技能などを見るAの分野の問題では、ほとんどの領域・観点で市や国の平均を上回っている。
●基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用できるかどうかを見るBの問題では、市や国の平均を上回っているとはいえ、書くことについては十分な達成とはいえない。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

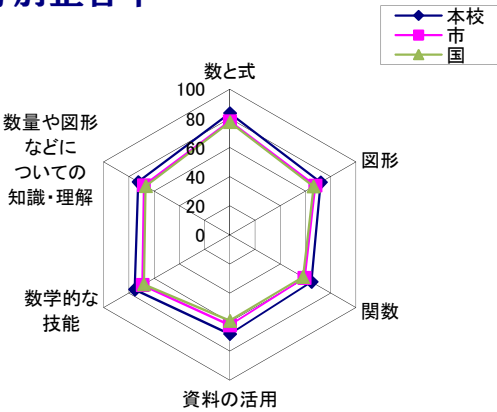
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○必要な情報を的確に聞き取ったりすることは良好な状況である。	・話す・聞く力の育成には、実際の場面や体験を活かし、伝え合うことに重点をおいたペア学習やグループ学習を取り入れた指導を心がける。
書くこと	○短い形での記述や、選択問題は比較的良好である。 ●文章を書く際、主語に対応させて述語を適切に書くことに課題が見られる。 ●資料に表れている表現の工夫を自分の表現に役立てることに課題がある。	・書く力の育成には、誰に、何を、何のために書くのかを明確にした指導を心がける。また、互いの文章を読み合い、相手の考え方や表現の良いところを知ること、自分の考えの幅を広げたり、記述の仕方のいろいろを知る楽しさを伝えたりする。 ・美文は短文という点を心がけさせ、だらだらとした長い記述を避けるよう指導する。 ・良い文章に多く触れさせるようにする。
読むこと	○文学的文章の内容把握は概ね良好である。 ○詩を読んで、効果的な語句の使い方に気付くことは良好である。 ●短歌の意味のまとまりを読み取ることに課題がある。	・表現内容の表し方には、情景描写や比喻などいろいろなものがあることを指導し、いちばん的確なものを選び取り表現できる経験を積ませる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字を正しく読むことについては、平均的であるが、正しく書くことにはやや課題がある。	・漢字や、接続詞の指導など、言語事項は、習得した内容を実際に活かす指導を心がける。 ・言語事項は積み重ね、繰り返し大切なことを自覚させる。折に触れて、復習や、心がけるよう指導をする。

宇都宮市立豊郷中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

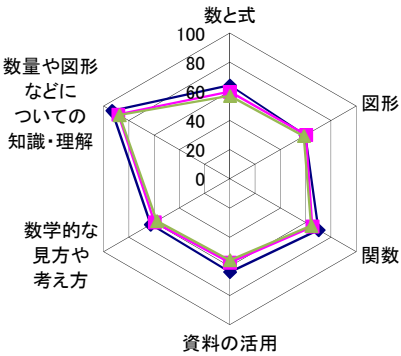
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	83.5	78.0	77.4
	図形	72.1	67.8	66.4
	関数	64.7	59.3	58.0
	資料の活用	68.3	62.2	59.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	75.4	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	72.7	68.2	66.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	64.2	59.8	56.9
	図形	59.9	60.3	58.6
	関数	70.3	65.5	64.4
	資料の活用	64.0	57.5	55.9
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	62.8	59.6	57.9
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解	93.3	88.4	87.5



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○本校の生徒は、94%が「数学ができるようになりたい」と思い、88%が「数学の勉強は大切だ」と考えている。いずれも国、市の割合よりも高い数値を示しており、数学に対する関心は高いと考えられる。

●一方で、「数学の授業の内容がよくわかる生徒」は76%で「数学の勉強が好きな生徒」は61%と、関心の高さに見合う数値を示していない。生徒の関心を授業に生かしたわかりやすい授業が行えるよう、指導力を高めていかなくてはならない。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○計算問題は、すべて70%以上の正答率で、数と式の全般的な理解度は、国、市の割合よりも高くなっている。 ●記述された内容を判断する設問で、50%の正答率にとどまっている問題がある。	文章問題について、その場面設定の把握、そして立式という解き方の流れを丁寧に指導していく。 計算する力はおおむね定着しているので、応用力・活用する力を伸ばすことに重点をおいた指導をしていく。
図形	○基本的な問題は、計算問題と同様に70%以上の正答率である。 ●平面図形の移動、空間図形の比較の問題で、正答率が50%に達していない。	空間認識の弱さが結果にも表れていることから、授業において、操作的な問題・活動の設定、視覚的な教材の工夫といった点に重点を置いた指導が必要である。
関数	○全体的に、国、市の正答率を上回っている。 ●4領域の中では最も苦手な単元となっている。特に、関数の活用の問題では、正答率が35%に満たない問題がある。	グラフを読み取る力が十分でないように思われる。グラフの事象をいかに解決するか、説明できるかがポイントとなるので、できるだけ身近な事象でグラフの意味を見極めさせる指導をしていく。
資料の活用	○説明を要する問題以外は、60%以上の正答率である。 ●説明を要する問題は、40%の正答率である。	記述、または説明する問題では、どの領域においても十分な正答率を示すことができなかった。授業では、生徒が板書、発言をする機会を増やし、苦手意識の克服と説明する力を伸ばしていく指導を心がける。

宇都宮市立豊郷中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

ほぼすべての項目での肯定割合が県や全国より上回り、地域や社会への関心も高く、明るく前向きに生活している様子がうかがえる。

＜学習に関すること＞

○休日の勉強時間についての質問では、県や全国より長時間勉強している生徒が多かった。

○家庭での読書の時間についても月曜日から金曜日及び休日のいずれも県や全国より長時間の割合が多かった。

○宿題・授業の復習についての質問では、いずれも「している」と「どちらかといえばしている」を合わせたの回答が県や全国を上回っている。

●『授業の復習』については、「している」生徒は全国より上回り県と同率であるが、「どちらかといえばしている」生徒が県より下回り、宿題や予習で復習まで手が回らないことが推測される。

＜学校生活等＞＜地域との関わり等＞＜社会に対する興味・関心＞

○学校に行くのが楽しいかの質問に対して、「そう思う」の回答が58.4%と県を7ポイント、全国を12ポイント上回った。

○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはあるかの質問でも「当てはまる」の回答が65.7%と県を2ポイント、全国を7ポイント上回った。

○先生はよいところを認めてくれるかの質問でも、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の肯定割合が県や全国を大きく上回った。

○地域の行事に参加しているかや関心をもっているかの質問については「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の肯定割合がすべて県や全国を上回った。

＜自尊意識＞＜規範意識＞

○ものごとを最後までやり遂げてうれしかったかや難しいことでも失敗を恐れないで挑戦しているかの質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の肯定割合が県や全国を大きく上回っている

●『自分のよいところがあるか』の質問では、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」が全国をやや上回っているものの、「どちらかといえば当てはまらない」と答えた生徒が27%おり、自信のなさうかがえる。○学校の規則や友だちの約束を守っているかの質問では、いずれも「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が県や全国より上回った。

＜家庭生活＞

○テレビやビデオ・DVD視聴の時間やテレビゲームを行う時間については、いずれも県や全国より少ない時間の生徒が多く見られた。

また、携帯電話やスマートフォンでの通話やメールについての利用時間も県や全国より少ない時間の生徒が多く見られた。

○学校での出来事を話すかの質問では、「話す」「どちらかといえば話す」の肯定割合が県や全国を上回った。

○家の人の学校の行事への参加についても、「よく来る」「時々来る」の割合が、県や全国を上回り、保護者の熱意がうかがえる。